

学校法人 品川女子学院（東棟）

所 有 者 学校法人 品川女子学院
改修設計者 フモトデザインスタジオ
株式会社 新井組一級建築士事務所
エイ建築企画株式会社
改修施工者 株式会社 新井組
所 在 地 東京都品川区北品川3丁目3番12号



大正15年に開学した当学院は、創立70周年を迎え、21世紀を指向した教育の実現のため平成2年より大胆な学校改革に取り組み「(既成の)学校らしくない学校を表現する」ことをコンセプトに、中高一貫教育の実施を始め校名の改称と共に校舎の全面改築・改修が実施された。

今、就学年齢人口が減少し私学経営難の環境の下、私学の生き残りをかけた施設の改良競争の中で多くの学校がスクラップ・アンド・ビルドされているが、当学院は既存の学校施設を大切なストック資源と捉え「新しい時代の新しい学校」として蘇らせ、生徒達に実現して見せたことは、社会的資源を大切に生きた教育をしたのではないかと。

改修の主なものは、第一に、竹内盛夫氏の設計当時には予想されなかった、その後の増築に次ぐ増築で学校としては不適切となった耐震性や防災機能及び動線と床レベル差の改良である。耐震診断結果に基づく柱・壁の大規模な耐震強度補強や建物重量の軽減又エキスパンジョイントの設置がなされ、正面国道側外壁の劣化に対しては保全と美観を兼ねたアルミパネルと御影石による印象深いファサードを造りだし地域ランドマークとした。又建物間の輻輳した動線を新たな平面用途計画の中で明確にし、適宜移動動線の途中にはギャラリーコリドール、ラウンジ等アメニティスペースを設け快適性を確保し語らいの場とした。床レベル差の不都合は残ったものの許容範囲のことではないかと。

次に、やや無計画に増築された建物の隣棟空間を利用した屋上庭園とその屋上庭園に面する教室のベランダには、彩り豊かなバラの花が咲き乱れるパーゴラが設けられ「学ぶ場から生活の場」とする学校側のコンセプトの実現を果たした。

又、今日では小講堂と言える空間を照明・音響等設備強化を施し独特なマルチユースホールとしての演出を成し遂げ、港湾倉庫の様だった体操場は大人の雰囲気を持ったカフェテラスとして蘇った。生徒便所を含めた各アメニティスペースと備品には、パステルカラーで優しい雰囲気が漂う配慮が施されている。惜しむらくは既存建築の当初の性能デザインレベルが残された部分と改修により改善された部分の間にデザイン不整合や緻密さにかけるものが残されたことで、審査会でも議論され今後の課題とされた。

防災・維持管理面では、維持保全計画が細かく20年計画されており、改修計画年度に先立ち「診断」を行ったうえで実行することとされ、効果的な維持管理が期待される。又ビルコンピューターが新規に導入され日常の火災・防災の一元管理と各種エネルギー等のスケジュール管理による省エネを考慮した運営が実現した。

脆弱な私学経営の中で高邁な教育方針をストック資産の活用により実現した当学院の理解こそはBELCA賞の真の受賞に値するものであろう。